

第6学年 社会科学学習指導案

平成18年7月 日 校時
指導授業 6年 組
指導教諭

1 単元名「3人の武将と全国統一」

2 単元の目標

- 信長・秀吉・家康の業績に関心を持ち、自分の選んだ武将について調べることを通して天下が統一されていった様子を理解するようにする。
- 3人の武将について調べたことをもとに、人物の立場になって戦国の世の統一や全国統一の様子をわかりやすく説明するようにする。

3 単元の評価規準

- 【関心・意欲・態度】 3人の武将の業績や働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
- 【思考・判断】 3人の武将によって戦国の世の中が統一されていった様子を業績や働きをもとにとらえ、武将の果たした役割などについて自分なりに考えている。
- 【技能・表現】 資料などから武将の働きなどについて調べた過程で分かったこと、考えたことなどをわかりやすく表現している。
- 【知識・理解】 3人の武将による全国統一までの様子やそれぞれが果たした役割について理解している。

4 指導にあたって

【教材観】

本単元は近世初頭の変革期について学習する。指導要領には第6学年の内容(1)エに「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について調べ戦国の世が統一されたことがわかること」とある。ここでのねらいは戦国大名の群雄割拠の状態から全国統一に至るまでを調べることを通して戦国の世が統一されたことが分かることである。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人はそれぞれに魅力にあふれる個性豊かな武将である。3人がお互いに影響を与え合いながらリレー式に全国統一を果たしていった様子はドラマティックで児童の心を強くとらえる学習材といえる。3人の武将の魅力にふれ、心を寄せることを通して児童に戦国時代にタイムスリップしたかのような感覚を味わわせていきたい。

今日、社会科では「調べて考え表現する力」が求められている。そこで3人の武将について漠然と調べ学習させるのではなく「学習問題」を設定し、児童に「調べたい、考えたい、表現したい」という意欲付けをする必要がある。

また、小学校の歴史学習は人物を中心とする学習であるから、共感的な理解が求められる。知識のつめこみではなく、調べたことをもとに歴史上の人物を身近な存在としてとらえ、考えをまとめたり発表したりする活動を取り入れていく必要がある。

ここでは児童に「あなたは3人のうち、だれが最もすぐれた武将だと思いますか」と問いかける。そのための調べ学習、調べ学習を元にした考える活動を行ってほしい。そうすることで児童は「調べたい」

「考えたい」と意欲的に取り組むことが出来ると考える。また「自分が選んだ武将」という意識は歴史上の人物を身近に感じさせ、その後の発表をしたり聞いたりする活動を通して児童に共感的な視点を持たせることが出来るのではないかと思う。

【児童観】

30人学級である。事前調査の結果、社会を好きな児童が18人、どちらでもない児童が12人、嫌いな児童は0人だった。社会の学習内容のうち特に歴史が好きな児童は26人だった。社会に対しては好きでも嫌いでもないという意見だが歴史は好きだと答えた児童は8人いた。歴史の学習で「特におもしろそうな・学習するのが楽しみな時代」として3人の武将とその時代をあげた児童は21人いた。

おおむね歴史の学習に対する興味関心は高いといえる。自由記述の欄にも「歴史に詳しくなりたい」「昔のことをもっと知りたい」という前向きな意見が多く見られる。

学習の様子を見ると、自主勉強に歴史を取り上げている児童も多い。また普通の授業の様子と比べると社会の時間は発言したり調べ学習したりすることに積極的に取り組んでいる。しかし資料をまる写しにし、書いたことを読むだけで終わる児童も少なくない。そのため意欲的に取り組んでいる割には理解できていない場合が多い。そこで調べたことをもとに自分の意見を持つように声がけしたり、人に伝えるためにはどのように話すと良いかを示すためにプレゼン技術の指導をしたりしてきた。各自歴史の学習を通して感じたことや考えたことはあるのだから調べたことをもとに自分なりに考えまとめたり、相手に伝わるように発表内容を工夫することで、歴史に対する理解を一層高められるのではないかと考えて指導している。

児童に事前に行ったレディネステストでは「3人の武将を全員知っている」児童が13人だった。個別に見ると織田信長を知っている児童13人、豊臣秀吉を知っている児童15人、徳川家康を知っている児童29人だった。名前は知っているけれど何をした人か知らないという児童が17人いた。

なお、確認テストの結果（平均点）は次の通りである。

○弥生・古墳（93, 3） ○奈良・平安（87, 8） ○鎌倉・室町（88, 9）

【指導観】

本単元の指導を通して、調べたことをもとに自分の考えを持ち、相手に進んで伝えようとする児童を育てたい。具体的には3人の武将のうち、自分が選んだ一人について「その人が最も優れている」根拠を調べ学習して集め、相手を説得できるように発表内容を考え発表させるようにしたい。またこれらの活動を通して児童に天下統一の様子を理解させていきたい。

そのために単元全体を『問いを見つける段階』と『問いを深める段階』の2つの段階に分けてそれぞれの段階で指導を工夫していくことにする。

『問いを見つける段階』

- 単元の学習への児童の興味、関心を高めるためにプロジェクターやビデオ、学級文庫に関係書物を用意するなど資料の活用を工夫する。
- 児童によってレディネスが異なるので、すでに知っている事実の交換会、3人の武将クイズなどを取り入れ情報の共有化を図る。
- 学習問題作りでは、単元のまとめとして「だれが一番優れた武将か発表会」をすることを提示し、児童の学習意欲を喚起した。

『問いを深める段階』

- 具体的な追究の内容としては教科書、資料集を基本としながらインターネットや図書室の資料も活用させていく。その際、網羅的にならないように、「優れた武将である根拠」を探していることを意識させていきたい。

	年表を読みとり、3人の武将に対する興味関心を高める。どの武将を選ぶか決め、これからの学習の進め方を考える。	について見通しが持てるよう確実に伝える。「だれ」が「なぜ」優れているのかを明らかにしていこう、と挑戦意欲を高める。 支 →どの武将にするか決めかねている児童には暫定的でよいことを声がけする。	だれについて調べようか見通しを持っている(思・判) ・「早く調べたい」など意欲的な姿勢が見られる。 (関・意・態) ・武将を選んだ根拠として資料を指摘している(技・表)	・学習の進め方プリント ・3人の武将クイズプリント
問 い を 深 め る	3 信長が国家統一を目指す	留 →進んで調べ学習に取り組めるよう意欲付けをする。児童の力で新たな事実が発見できるよう教師は知識をつめこもうとしないように配慮する。それぞれの武将の個性に着目させる。それぞれの武将の功績のうち、特に理解させたい部分については抽出して指導する。 ☆伊達政宗に興味を持ち調べたいという意欲を持っている児童には調べて良いことにし、別わくの発表時間を設ける。	・自ら資料を収集・選択し調べ学習をしている。早く発表会をしたい、と発言したりそのような素ぶりを見せている。(関・意・態)	・顔写真 ・信長ビデオ
	4 秀吉が大名を従える	☆伊達政宗に興味を持ち調べたいという意欲を持っている児童には調べて良いことにし、別わくの発表時間を設ける。 支 →学習に集中できない児童に対しては城やかぶとなど本人の興味をそそる切り口を提示し意欲を喚起する。	・条件にあった適切な調べ方をしたり、調べたことをまとめたりしている。 (思・判) ・学習問題解決の目的に応じた資料の選択をしている。 (技・表) ・具体的事実について理解している (知・理)	・顔写真 ・秀吉ビデオ
	5 家康が江戸幕府を開く	☆伊達政宗に興味を持ち調べたいという意欲を持っている児童には調べて良いことにし、別わくの発表時間を設ける。 支 →学習に集中できない児童に対しては城やかぶとなど本人の興味をそそる切り口を提示し意欲を喚起する。	・伝えたい、聞いてほしいという発言や行動が見られる (関・意・態) ・調べた事実を比較したり関連づけたりしている。事実をもとに「つまり」「まとめると」などの言葉を使って考えている(思・判) ・調べたことから考えたことを関連づけて適切に表現している(技・表) ・関係する物を正しく結びつけている(知・理)	・顔写真 ・家康ビデオ
	6 発表会準備 ・調べ学習を通して各自学習課題を追求する。調べたことを元に自分の考えを持つ。発表会の練習をする。	留 →まとめ方のアドバイスをする。資料を写すだけにならないよう、自分の意見としてまとめられるように結論と根拠付けの視点を持たせる。キーワードカードや補助プリントを活用させる。1分間を意識させる。 ☆発表会に向けて、全ての児童がどの武将を支持するか、根拠は何かを把握しておき、座席、発表順序を決定しておく。 支 →自信の持てない児童には個別にリハーサルをする	・自信に満ちた表情や、友達	・各自の準備状況チェック表 ・キーワードカード ・補助プリント
8 だれが一番優	(8時は発表の前半を行い、9時	・自信に満ちた表情や、友達	・発表会用座席表	

<p>9 れた武将か?! 発表会 (本時9/9)</p> <p>調べたことを元に、自分が最も優れていると思う武将とその根拠を発表する。それぞれの武将の働きの関連について知る。武将の視点から全国統一について自分の考えを持つ。</p>	<p>は後半とまとめを行う)</p> <p>留→キーワードを示して聞き手に自分の考えをわかりやすく伝えられるよう声がけする。質問を用意しながら聞くように声がけする。キーワードカードを用いて黒板に発表内容を掲示する。3人の武将の功績について教師主導のまとめをする。武将の立場に立って考えをまとめられるよう声がけする。</p> <p>支→発表をくり返したりコメントをして周知させる</p>	<p>の発表も共感的に受け入れようとする態度が見られる</p> <p><u>(関・意・態)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方の変容を自覚している <u>(思・判)</u> 友達の意見に耳をかたむけながら意見をまとめたり自分なりの考えを理由付けながら出している <u>(技・表)</u> 全国統一について総合的に理解している <u>(知・理)</u> 	<p>と発表順一覧表</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想を書きこむプリント
--	--	--	--

6 本時の指導計画 (本時9/9)

(1) ねらい

調べたことをもとに選んだ武将の働きや役割について優れた点を、理由付けしながら説明することを通して、3人の武将による全国統一の様子を総合的に理解するようになる。

(2) 学習課程

主な学習活動	指導上の留意点・支援	評価規準と方法	資料
<p>1 意見発表続き…15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ武将ごとに働きや役割の優れた点について発表を行う。 質疑応答を行う。 気付いたことなどをメモする。 「信長はだれもやったことのないことを切り開いたんだからすごい。例えば…。」 →「それは秀吉の力もあるよ」 「秀吉は足軽から出世してすごい。なぜ出世できたかといえば…」 →「取り立てた信長もすごいよ」 	<p>留→ 選んだ武将ごと、根拠に共通点のある児童をまとめて座席を変更し、発表順もまとめて行う。キーワードカードを板書に使う。</p> <p>「だれ」が「なぜ」優れているのかを考える視点を持たせる。</p> <p>考えを深められるような質疑をうながす。感情的な意見であっても思い入れの強さを認め、励ましていく。</p> <p>質問することを念頭に置いてメモを取らせる。</p> <p>聞きながら考えた意見を補助シートに書きこんでも良いこと</p>		<ul style="list-style-type: none"> 3人の武将顔写真 キーワードカード まとめのプリント

	を声かけする。 支→ 発表に集中するよう質問カードを活用させる		
2 3人の武将の全国統一について、その様子をまとめる 10 ・教師のまとめを見て、全国統一について総合的に理解する。	留→ キーワードカードをもとに板書をまとめ、3人の武将の功績の関連に気付かせる。 説得力のあるまとめをするために、事前にキーワードをチェックしておく。 支→ 児童自身の言葉でまとめられるよう、納得できずにいる児童の発言を促す	・3人の武将の全国統一について、これまでの調べ学習をもとに整理し理解している。 <u>(知・理)</u> [観 察]	
3 全国統一についての自分の考えをまとめる 10 ・補助プリントに自分の考えを書く。選んだ武将の立場で考えをまとめる。	留→ まとめを意識させる。ここでも結論への根拠付けを意識させる。 支→ 気はずかしさを感じる児童には客観的な視点で書いても良いと声かけする。	・全国統一について総合的に自分の考えを分かりやすくまとめている。 <u>(技・表)</u> [観察・補助P]	
4 3人の武将の中で支持する武将について、自分の考えを発表する 10 ・希望者が発表する。 ・「私は家康だ。私が一番えらい。しかし信長、秀吉がいたから天下を取れたんだとおもっとる」 ・「私は信長じゃ。わしが一番えらい。なぜなら秀吉も家康もわしを取り立てたことで力を発揮できたからじゃ」	留→ 児童が3人の武将に心を寄せることを目的に、人物に身を置いて発表するよう声かけする。 支→ 断固として自分の選んだ武将の優れた点を強調する児童には、そのこだわりを認める。	・3人の武将の中で、自分が支持する武将について、その武将になって理由付けして説明している。 <u>(技・表)</u> [観 察]	
5 本時のまとめをする 2			